

Nadeshiko-no-kai Report

東京学芸大学附属小学校 ● 同窓会

撫子の会

会報 16 号

小学校はエンピツの匂い

会長挨拶

「音の記憶」を

紡いで伝統は

受け継がれる

「撫子の会」会長 佐々 智樹

撫子の会会員の皆様には益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は撫子の会運営にご協力頂き役員一同を代表して心から御礼申し上げます。おかげでここに第十六号会報をお届けする事が出来ました。伝統ある豊島・追分・小金井・三校の同窓会として発足して既に二〇年以上が経ちました。同じ撫子を校章とするこの撫子の会を同窓生の交流の場として更に充実した会とし、将来に亘って伝統ある小学校が優れた教育環境を維持出来るように同窓生が力を合わせた支援活動を繰り広げられるよう努力をして参る所存です。これからも一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて今回の会報のテーマは「音の記憶」です。クラス会や撫子の会で同窓の仲間に出

と必ず話に出るのは至楽荘での遠泳の話や一字荘、成美荘に於ける野山での楽しい課外授業です。しかし母校は音楽を通しての情操教育も大変優れていたと思います。豊島小学校に五年生まで在学、廃校に伴い六年生から小金井小学校に転校した私にとって小学校の「音の記憶」は豊島小学校に多くあります。

最も記憶にあるのは下校の音楽。それは「家路」です。ドボルザークの交響曲第九番「新世界」の第二楽章。「遠き山に日は落ちて」という有名な曲です。放課後遊びに夢中になつていてもこのメロディーを聴くと、憂いのある人恋しい旋律に促されて急ぎ学校を飛び出したものです。確か小学校高学年の頃に父親の持っていたLPレコードの中から「新世界」を偶然見つけ、それが下校の音楽だという事を改めて認識しました。何度も聴くうちに第二楽章だけではなく第三楽章も大好きになり、繰り返しB面から聞いた事を昨日のように想い出します。丁度ステレオがブームになつていた時期で、それがきっかけで音楽が大好きになり、ラジオから流れるアメリカンポップスやジャズに目覚めて行きました。

ところで豊島小学校は豊島公会堂で音楽発表会が開かれておりました。その懐かしい

豊島公会堂はまだ残っていますが、建築から六〇年以上経ているために二〇一七年に閉館し新しく生まれ変わる予定のようです。

音楽の先生は有名な田中準先生。音楽の時間は遊びの時間と勝手に決めていた私はいつも田中先生のゲンコツをいただいていたことが、芸術家らしい感情の細やかな先生でした。

「音の記憶」とは少し違うのですが放送室も深く記憶に残っています。豊島の放送室は当時の小学校の施設としては立派なもので、スタジオ、調整卓、アナウンスブースと分かれていて、フカフカの絨毯が敷かれたスタジオに入るだけで厳粛な気持ちになった事を想い出します。放送委員はお知らせの時にマイクの前にあるチャイムを鳴らしてからお知らせを読み上げていました。自分が放送委員だったかどうか記憶は定かではありませんが先輩のテキパキした所作に憧れていたものです。

そのような訳で小学校高学年から音楽が大好きになり、ご多分にもれず高校・大学時代は楽器演奏に夢中になりました。その後ラジオ局、レコード会社で音楽の仕事をして、現在も音楽の仕事が続いています。不思議なもので、自分の将来に関わる下地は小学校の時に既にある程度固まっていたように思います。

最後になりましたが、誰でもが「音の記憶」

として持ち続けている校歌。豊島の校歌は歌詞が変わりましたがメロディーは変わらずに、小金井小学校の校歌として歌い継がれています。伝統はいまなお脈々と流れ続けているのです。

第十回総会報告

平成二十六年十月十八日、約五〇名の同窓生が小金井小学校の食堂二階に集まり、「撫子の会」総会が開かれました。

報告Ⅱ副会長…川田 紀雄

冒頭、佐々会長より、豊島、追分、小金井の伝統を次世代に繋げていきながら、同窓生が集い憩う場を提供していきたいとの挨拶がありました。

●平成二十五・二十六年収支決算

および監査報告

今期は旧追分校の記念銘板設置に関する事業費の計上がございました。特に問題はなく承認されました。

●任期満了に伴う役員改選

理事会より新役員案が提案され、承認

されました。

※新役員につきましては次頁参照。

●成美荘養気閣保存運動について

柴田理事より成美荘養気閣の建物保存について、学芸大学と共同で検討がなされている件について報告がありました。

●旧追分校記念銘板設置について

野久尾理事より旧追分校跡地にあたる文京区立第六中学校に七月二十六日、記念銘板を附属竹早中学校同窓会と共同で設置した旨、報告がありました。

懇親会報告

報告Ⅱ理事…吉田 朋弘

総会に引き続いて懇親会が催され、豊島修練会所蔵の豊島師範時代の至楽荘生活のビデオ上映が行われ、当時を懐かしみながら話が弾みました。

小金井平成八年卒の方が久しぶりの親友との再会の場に同窓会を活用してくださいました。人生の節目を迎えて、ふっと思いついて参加してくださった方も多かったようです。(了)

◎決算報告収支計算書

平成26年度 (H26年4月1日～ H27年3月31日)

●収入の部		●支出の部	
(科目)	(金額)	(科目)	(金額)
前年度繰越金	10,151,403	会報15号印刷郵送費	11,085,432
追分同窓会より	50,722	第10回総会－懇親会経費	136,455
記念品売上	2,700	追分記念碑事業	189,432
入会費	1,590,000	同上 経費	44,534
*H27年3月卒業生×159名		慶弔費	43,000
総会当日入金	35,000	郵送費	8,774
寄付－支援・総会参加費	1,799,710	HP 維持改訂費	43,632
利子	4,282	次年度繰越金	12,082,558
収入合計	13,633,817	支出合計	13,633,817

<内訳>

・会報15号・・・モノクロ印刷 12p 8,000 部、6,515 部発送

平成25年度 (H25年4月1日～ H26年3月31日)

●収入の部		●支出の部	
(科目)	(金額)	(科目)	(金額)
前年度繰越金	10,013,359	母校空調工事寄付金	2,000,000
ぶらり同窓会－会費他	88,000	会報14号印刷郵送費	1,247,820
寄付－支援金	1,308,810	ぶらり同窓会経費	210,000
入会費	1,550,000	連絡、郵送、事務雑費	8,436
* H26 年3月卒業生×159 名		HP 維持改訂費	42,840
利子	330	次年度繰越金	10,151,403
収入合計	13,660,499	支出合計	13,633,817

<内訳>

・会報14号・・・モノクロ印刷 12p 9,000 部、7,531 部発送

◎新役員

理事		副会長		会長	
山佐	西山	柴田	大鹿	野久尾	川田
和雄	マサ子	通彦	晏弘	悟	紀雄
追分	追分	豊島	豊島	小金井	小金井
昭33卒	昭32卒	昭35卒	昭30卒	昭51卒	昭41卒

特別顧問		監事		理事	
金子	楠本	丸森	吉田	清水	保坂
修也	維大	康平	朋弘	洋岐	健二
追分	小金井	小金井	小金井	小金井	小金井
昭25卒	昭58卒	昭51卒	昭58卒	昭56卒	昭52卒

母校から・先生から

小金井小学校の

「音楽会」

「クラスで奏でるハーモニー」

副校長 関田 義博

今年の十一月十九、二十日、本校は「なでしこ音楽会」を開催いたします。音楽会は三年に一度の開催で、本校の子どもたちは六年間で二回の音楽会を経験します。ちなみに昨年度は展覧会の年で、一昨年度は研究発表会の年でした。二日間の日程は、一日目の午前が一組音楽会、午後が二組音楽会、二日目の午前が三組音楽会の予定です。今年三月、最後の四クラスだった六年生が卒業したため、全学年が三クラスになりました。今年度はかつての四クラスのとおり同じように、縦割音楽会を開催できることになりました。

一年生の楽曲は、かつて本校で教鞭を執られていた渡辺茂先生作詞作曲の「ふしぎなポケット」など、コミカル、リズムカルなものが中心です。身振り手振りをまじえた合唱が、

一年生らしくて実にかわいらしく感じられます。おそらく、この一年生の出し物は、四十年ぐらい変わっていないものと思われます。二年生以上は合唱と合奏の組み合わせで、学年が上がるにつれて、内容や使用する楽器が高度になります。

今年度は六年年で合計十八クラスの体制が完成したため、十月には六年ぶりに、クラス対抗運動会も復活します。本校はもともと、クラスというものを子どもたちの学校生活の基盤として大切に考えてきましたから、クラスが団結できる機会が、運動会と音楽会の二つあるということは、本校らしさを発揮できるという点では大きなメリットです。

音楽会で子どもたちが発表する楽曲は、邦楽や洋楽の有名な曲目ばかりです。ふだんの音楽の授業においては、子どもたちは友達と力を合わせて音づくりや曲づくりにも取り組んでいます。ですから、子どもたちは音楽会において、日頃の創造的な音楽表現を基盤にして、完成された曲目での合唱や合奏に挑戦することになります。

最後に、三年前の音楽会での、六年女子の感想を紹介します。

「今年は最後の音楽会。私たちはかなり力



を入れ、一生懸命練習してきました。本番が近づく中、私にはふと思ったことがあります。それは、ただ聴いてもらうだけでなく、私たちの音楽でクラスカラーを伝えたいということです。合唱で仲のよさと絆の深さ、合奏では元気のよさと明るさという、六年一組のクラス

カラーを伝えたい。私は強くそう思いました。そして迎えた本番。私たちは、聴いている人に確かに伝えることができたと思います。卒業が迫る中、この音楽会は、最高の仲間への感謝とともに、私の胸にしつかりと刻み込まれたのでした。」

学 校 の 歌 より



●以前、柘植先生が楽譜を起こしてくださった附属小金井小学校の校歌の3番です。

新しい音楽教育と なでしこたち

文教大学教授 島崎 篤子

カビくさい東京学芸大学附属図書館の書庫に入り浸って音楽教育史研究に没頭していた大学院時代を経て、東京の公立中学校の音楽教師として僅か一年間の教員経験しかなかった私は、恩師たちの強力な勧めで、戸惑いながら一九七七年に附属小金井小学校（以下、金小）に着任した。それから二〇〇〇年の春まで、二十三年間もの長きにわたり音楽専科教師として勤務させていただいた。三十一人の教員中、養護教諭を入れても女性教員はたったの五名。心身共に脆弱だった私は、人生の最も輝かしい二〇代から四〇代に金小で多くの苦悩や喜びや感動を経験し、その全てが私を人間としても教員としても鍛えあげてくれた。

近年、一九六〇年代の創作教育史の論文を執筆して知ったことだが、金小が文部省の初等教育実験校として飯田秀一先生を中心に創作指導の実験研究に取り組んだのは、豊島小学校と追分小学校が武蔵小金井に合併開校して三年目の一九六一年と翌六二年だった。

まだ全学年が揃っていない中で実験校を引き受けた事実にも、附属校としてのプライドが感じ取れる。私が着任した時にも、創作教育重視の研究方向は踏襲されていた。着任時に副校長だった小林森先生は、先輩に倣って合唱曲の作曲や合奏曲の編曲をすることを私に勧めた。若かった私は素直に作曲や編曲を手掛けた。また創作教育では、新しい創造的音楽学習（Creative Music Making、以下CMM）の分野で、実践的研究者として先導的な実践に取り組んだ。CMMとは、子どもが様々な音素材に向き合い、主にグループで自由な発想による多様な音楽様式の音楽を自ら創りあげる学習である。活動例を挙げると、ボディーズ・サウンズづくり、ラップミュージックづくり、ケチャづくり、韓国のサムルノリづくり、宇宙



今、至楽荘で

作詞作曲 島崎 篤子



* 1 番の最初の歌詞は、荘の改築後に、「鶴原鴻見つめて 静かにたたずむ荘は〜」に変えた。

●同窓会ホームページで音声を聴くことができます。お試しください。

の音楽づくり、音素材を限定した音楽づくり、音の世界旅行（諸民族の音楽）、阿波踊り音楽づくり、沖縄のエイサー音楽づくり、太鼓音楽づくり、サンバのブレイクづくり、詩や物語による音楽づくり、絵や映像による音楽づくり、手づくり楽器による音楽づくり、アンサンブルの工夫など、枚挙に暇がない。子供たちは新しい創作活動を楽しんでくれた。特に文部省から依頼された「宇宙の音楽づくり」の授業は、第六次学習指導要領（平成元年告示）の創作学習のモデル授業として、

十六ミリ映画が制作され、そのビデオ版は全国の都道府県の教育委員会に配布された。真摯に音・音楽に向き合い、音楽づくりをするなでしこたちの姿を映像で全国に発信できたのがうれしかった。創造的ななでしこたちのおかげで、多様で斬新な試みは予想以上の成果をもたらしてくれた。新たな音楽教育を拓くという志をもって、金小の教育実践の成果は、音楽教育誌や書籍に発表させていただいた。合唱曲の他に、行事関連の歌を作曲するのにも楽しかった。「至楽荘の歌」と「一字荘の歌」は田中準先生の作品で、「ぼくらの一字荘」は飯田先生の作品である。先輩の曲を教え

同窓生から

追分小学校の 思い出

追分昭和三十二年卒 加藤 紘子

懐かしい追分小学校時代を振り返り、私の人生の土台を築いていただいたたくさんの先生や友人たちにまず感謝したいと思います。私は身体の不自由な母から生を受けましたが

ながらも、自ら作詞作曲した「今、至楽荘で」（楽譜参照）を担当学年の子供に指導した。「宿泊生活の歌」（三年生用）、「楽しい音楽会」、「周年行事の歌」、「今日は一年生」、「ありがとうお兄さん、お姉さん」（六年生を送る会用）なども作詞作曲した。残念ながら私の曲は、今は歌われていないようである。しかしあの時あの場面で、一生懸命に歌ってくれたなでしこたちの明るい歌声は、私の音の記憶の中に生きている。

器楽合奏委員会の演奏も懐かしい。毎年卒業式の入場時に演奏していた四声のバッハの「フーガの技法」には、最後の一人が着席

幼いころより遊ぶことやおやつを貰うことよりも歌を歌うことが大好きで、大きくなったら「歌のおばさん」になりたいと思って育ちました。当時の私の家にはピアノが無く、ピアノが与えられたのは高校三年の時でした。



そんな私に、小学校時代の音楽教師であられた飯田先生が昼休みや放課後に音楽室を利用させてくださり、ピアノの練習ができるようにしてくだ

するのと同時に、曲の最終音が会場に響きわたるようにするという伝統があった。微妙にテンポを調整する私の指揮を見つめながら、ハイレベルな曲を見事に演奏していた委員会の子供たちの真剣な眼差しが忘れられない。成長したなでしこたちの日常に音楽は鳴り響いているのだろうか。まだリコーダーを大切にしているだろうか。共に音・音楽を探究し、感動と自信を与えてくれたなでしこたちのおかげで、私は今、胸を張って教師を目指す学生たちの前に立っている。そしてこれからも、金小の教育が日本の教育の未来を切り開く力になり続けることを期待している。

さいました。また、その頃私は音羽ゆりかご会等の童謡の世界に入っていました。先生は童謡を歌う時の発声には問題があると考えられて、先生自ら私の発声を調整してくださいました。更に、私に歌を歌う機会を種々提供してくださいました。先生が担当されていたNHKの番組出演や、学校での音楽会や学芸会等でも独唱の経験を何度かさせてくださいました。まさにその後の私の歌の人生に於て助けになる事ばかりでした。

もう五〇年以上も昔のこととなってしま

ましたが、思い出してみると豊かな愛情と配慮の中に置かれていた自分を本当に幸せ者だったと深く思います。

昨年、歌の仕事の面でひとつの区切りをつけることとなり、それまで専門に学んできた声楽の世界のジャンルを広げて、お客様のリクエストに沿ってプログラムを構成するコンサートを始めました。その際改めて、追分小学校時代に受けたたくさんの教育が齢七〇歳となった現在にも大変役立っていることに強く気づかされました。追分小学校では、個人個人の子供に目を向け、一人一人に最も相応しい成長を促し、育むような教育をしてくださったことを次から次へと思います。例えば、水泳にしても学校のプールでは二十五メートルしか泳げなかった私が臨海学校では海の景色が素晴らしく大きな自然に抱かれて、友人たちと励ましあいながらついに長い距離の遠泳を泳ぎ切ることができました。こうした経験から今でも、孫たちと一緒に海に入って励ましながら泳ぐ喜びを味わっています。

追分小学校では、飛松校長先生、松村教頭先生、丹羽広子先生、小川格先生、飯田先生、腰山先生等のたくさんの先生方に囲まれて育てられてきたことは私の大きな宝となっています。また、小学校時代の六年間クラス替え

が無く同じクラスメンバーだったことから深い友情が生まれてきたのではないかと思います。ただ残念なことは、文京区の六中と一緒にあったあの懐かしい校舎が今はなくなってしまうことです。とても寂しく思います。

最後に、今回ご縁があつてこうした思い出の文書を書く機会を提供くださった「撫子の会」の方々に心より御礼申し上げます。文章を書くのが苦手な私ですが、こうして書いている内に、現代ではなかなか得難いような特

「小学校はえんぴつの におい」に寄せて

小金井昭和四十四年卒 広谷（木戸）順子

そつと目を閉じ、小学校時代を思い返す時、私の頭の中には澄み切った青空と共に「双頭の鷲の旗の下に」が軽快に流れて来ます。私達の奏でるアコーディオンに合わせて全校生徒が行進して行く光景。小金井小学校には高学年になると、ある程度ピアノの弾ける生徒がピックアップされて朝礼や様々な学校行事の際に生演奏をすると言ったアコーディオンバンドがあり、私もその一員として、みんな

権的な教育環境を与えられた自分を再発見しお世話になったたくさんの方々改めて感謝の気持ちで一杯になりました。願わくは私たちが享受できたような手厚い教育が孫たちの世代にも継続されますように祈りつつ。

〔HIROKOのホットコンサート〕

●日時：10月22日(木)
午後2時より約2時間

●場所：「こけし屋別館2階」
JR西荻窪駅前

ご関心のある方は是非聞きに来てください。
お待ちしております。

より少し早く登校、朝練に励みました。

ご指導下さったのは音楽の田中先生。げんこつ器なる物を傍らに、大柄で豪快な、子供心にちよつぱり恐い印象だった先生に怒られまいとして一生懸命練習した日々。幼い頃から幸いな事にピアノが身近にあつたとは言え、ドッチボールで突き指をしたと言つてはピアノのお稽古を休むような、あまり真面目な生徒ではなかった私でしたが、ピアノ譜からだけでは解り得なかった音の構成と言う物を、ソプラノ、アルト、テノール、バスとに分かれたアコーディオンの響きを体感する事で知り、音楽の奥深さに惹かれて行つたのだと思います。特に印象的だった「フーガの技法」バッハ特有の、全てのパートが主役であり、主題と

なるメロディが追いかけるように見え隠れしながら組み合わさって行く時の、何とも言えない神秘的な感覚！戴いたスコアをワンパートずつピアノで辿りながら、いつの間にかバロック音楽の虜になって行きました。この事は後に、アカペラ等、多重録音のコーラスアレンジをする上で大いに役立ったと思っています。

又、階段状にオルガンの並ぶ第二音楽室。飯田先生から作曲の授業をして頂いた事がありました。今でも生まれて初めて作った短いオリジナル曲、はつきり思い出す事が出来ましたが、思いのほかスラスラとメロディが浮かんで来た事に、得意になって家族に歌って聴かせた事を思い出します。それから創作する事、想像する事が楽しくなったのは言うまでもありません。

合唱曲では仕上げにいつも素敵なイントロや伴奏をつけて下さり、単なる旋律が、美しい和音を伴うと、何と感動的なメロディに変化する事か！その胸がキュンとなるような心地よさに誰よりも高らかに陶醉しきって歌っている自分に気付いてはビックリしたものです。

そしてもうひとつ、食堂での給食の時間も未知の音楽に触れる大事なひとときでした。オペラ「魔王」の繰り広げる、病気の子供

と命を奪いに来た魔王、それに気づかず医者へと馬を走らせる父親の緊迫したやり取りが映像となって迫って来た事、今も脳裏に焼きついています。

それらのひとつひとつが私の音に対する拘りのようなもののエッセンスとなり、後に、インターカレッジオリジナルソングコンテストで作曲賞、グランプリ賞を獲得、シンガーソングライターとしてのデビューへと向かわせ

音楽人生の 土台を形成した 附属小での歩み

小金井昭和五十五年卒 内海（湊）順子

「行進曲 大空」。私が最も好きだった曲。シーソソソソ、ソファソソソソ、ソファミッドファー。練習と本番で何百回弾いたのだろう。器楽合奏委員会の楽譜の入った赤いファイルは私の小学校時代の一番の宝物。楽譜はだいぶ色あせているが、今も私の傍らに大切に保管してある。私の音楽人生の原点である。

私は四歳年上の兄が附属小金井小に通っていたため、幼稚園の頃、母に連れられ何度も

てくれました。

それから三十六年余り、名のある音楽大学、専門学校などの肩書きの一つもない私が、音楽の世界で、歌手、スタジオミュージシャン、作詞作曲アレンジ等多方面に渡って今日まで仕事を続けて来られた奇跡は、こんな小学校での思考の扉を開かせてくれるような音楽環境のおかげだったのだと、その贅沢で幸せだった時間に今更ながら感謝するばかりです。

学校にも行き、自分も当然この小学校に通えるものだと思っていた。ところが、入学試験の学科試験の後の抽選で落ちたのである。抽選会場で泣きわめいていたのを今でも鮮明に覚えている。私自身が親になり娘を小学校受験させた今、両親も本当に大変だったと容易に想像できるが、当時幼稚園児の私にはわかる筈もない。「絶対にお兄ちゃんと同じ学校に行く」。兄二人の三人兄弟の末っ子のわがまま娘だった私は、言ったらきかない。家族を巻き込んで大変な一年が始まり、念願叶って編入試験を経て、二年生から附属小金井小での歩みが始まったのである。

新たな学校生活で最も印象的に私の目に飛び込んできたもの。それは、朝礼での器楽合奏委員会の演奏であった。ピアノは四歳から

学んでいたが、目の前のお兄さんお姉さんの弾いている楽器は何？楽しそう！私の興味はそれに集中した。五年生になったら絶対に器楽合奏委員会に入る！アコーディオンのソプラノパートがやりたい！そんな私に母は、桐朋学園大学の一期生であり小澤征爾さんと同期の情熱的で非常に厳しいピアノの先生を探してくれ、厳しくも愛情深いレッスンで育てられた。音楽の根本、すなわち、読譜力、和声感、音楽性、初見力などをたたき込まれた。演奏家・音楽指導者となった今、その能力の必要性は非常に理解出来るが、この先生のレッスンの緊張感と音楽観と分析力は、私の音楽家人生の土台を築くこととなったのである。

五年生になり、夢だったソプラノパートになった私は、日々の練習が楽しくてたまらなかったと記憶している。朝礼のたびに、朝礼台の脇で畠澤郎先生の指示に従い、教室に帰る児童の状況に合わせて、演奏曲の反復か次の曲に展開するか、先生の指示を瞬時に受け止め、演奏に集中する。緊張感の中で演奏する喜びを見出す、それを学んだ日々であった。先生の指示通りに出来た時の達成感、パートで一致して、さらに器楽合奏委員会全体で気持ちに合わせて演奏する団結力。このような教育的効果を知らず知らずのうちに経験させ

ていただいた。その到達目標のために、陰でどれほど先生方がご準備され、心砕かれていたか。演奏家、教師、親になり、筆舌に尽くしたい感謝の気持ちで一杯である。

小学校四年生の秋、健康を全く害したことがない父が、倒れて六日目に四十四歳の若さで突然の脳疾患で亡くなってしまった。父の告別式は父が留学後に初めて教鞭をとった国際基督教大学のチャペルで行われた。現実を受け止めきれない私の耳に入ってきたのは、千人を越える参列者の方々の献花の間中流れていたパイプオルガンの音色であった。生まれて初めて聴いたパイプオルガンの音色は、優しく柔らかで穏やかで、身体も心もすべて包まれているような音色だった。

その後進学したミッションスクールの高校の入学式で、パイプオルガンの音色に再会した。忘れていた一〇歳の記憶が鮮明に蘇り、パイプオルガンを勉強したいという気持ちを抑えることは出来なかった。家族の協力と様々な方々に支えられ、感謝なことに大学・大学院・ドイツ留学の道が開かれ、オルガンの学びに集中することが出来た。

現在私は、コンサートオルガニストとして演奏活動をしつつ、大学や教会でオルガンを教え、教会と中高大のミッションスクールの

礼拝オルガニストとして等々、日々オルガンに携わる仕事をさせていただいている。特に演奏活動においては、いらしてくださいましたお客様に「楽しんでいただけるように、喜んでいただけるように、オルガンの多彩な音色に感動していただけるように」をコンセプトに、楽器の可能性を追求しつつ、幼かった私が癒されたようにお客様に寄り添えるような音が奏でられるように日々鍛錬している。その根底にあるものは、

器楽合奏委員会での経験、附属小金井小での様々な経験と学びであると強く感じている。また、現在に至るまで交流の続いている附属小中の仲間の支えがあるからこそ、今の私がある。ご指導くださった先生方と尊い仲間の存在は、私の人生の宝だ。感謝という単純な言葉では表現し難い存在である。

〔内海恵子オルガンリサイタル〕

日 時：2015年10月9日(金) 18:30開場 19:00開演
場 所：武蔵野市民文化会館 小ホール
入場料(全席指定)：一般3,000円 学生1,500円
お問い合わせ：ゼール音楽事務所 zele@iris.ocn.ne.jp
チケット取扱：ゼール音楽事務所、チケットぴあ 他
詳 細：内海恵子ホームページ organist-keiko.com

国立競技場と

なでしこサッカークラブ

小金井昭和四十六年卒 池田 健

昭和四十五年。秋空の下。舞台は国立競技場。現天皇皇后両陛下のご観戦のもと、その日はやってきました。そう、なでしこサッカークラブ六年生は、国立競技場の舞台に立っていました。我々は、恒例の読売ランド小学生サッカー大会において優勝した某チームに1対4と完敗したものの、春は三位、夏はベスト8と優秀な成績を手にしていました。ちなみに優勝したチームには中学生が混ざっていたというもつばらの噂でしたが、真相は藪の中です。かくいう我々も四年生の体育の授業の中で四クラスの中から四〇五名の見込みのありそうな少年を発掘し六年生まで合わせると計五〇六十名前後のメンバーで土曜サッカーというクラブを編成していました。公然と体育の授業の中で選手の選抜が行われ、ある者はいつの間にか忽然と姿を消し、新たに優秀な

選手が編入されたりしていましたから某チームのことを非難する事も出来ないのです。職員会議で問題にならなかったのかなどの多くの疑問も腰山先生や大場先生が旅立たれた今永遠の謎となりました。この日はアジアユース大会が開催されるとあって、スタジアムには多くの観客が詰めかけていました。メンバーは、平野立一君を怪我で欠いたものの、慶応大学の名選手として活躍し、我々を鍛えてくれたお父上を持つ松沢卓君、杉澤直樹君、小林晃君、三塩達也君、中村潤君、北川昇君、菊池徳雄君、岩本佳久君、原口寿章君、寺内正典君、池田でこの晴れ舞台に立ちました。(記憶が違っていたらすみません)『くだいまより模範試合を行います』アナウンスが流れました。いったいどんな模範が示されるのだろう、模範というのだから往年の名選手が出てくると考えていた観客から失笑とどよめきが起きたことを記憶しています。対戦チームは今度こそ中学生のいない小学生チーム、我々は全力を尽くしましたが試合は引き分け、しかし皆満足して帰宅したはずでした。あれから幾星霜、杉澤君は早稲田大学のサッカー部として活躍した後、会社員の傍らJリーグのモンティディオ山形の監督も歴任しています。三塩君、北川君は同期会の幹事

となり我々が再会する機会を作ってくれます。特筆すべきは我々の学年の数年前から女子チームが編成され私が五年の時の六年生のお姉さま方は「少年サッカー」という枠を乗り越え大会に出場、二回戦まで勝ち進みましたが、まさに「なでしこサッカー」の先駆けです。読売大会もその後全国大会となり、中村俊輔選手をはじめ多数の選手を輩出しています。我々の好敵手暁星小学校にはドイツのブンデスリーグで活躍した尾崎加須夫選手がいました。ブンデスリーグには香川真司、内田篤人ら日本代表が在籍していますからそのすごさを認識していただけたと思います。

ところで私たちが試合をした昭和四十五年



サッカー小僧時代

の約四半世紀前には、学徒出陣という名のもとに、国立競技場の前身の明治神宮外苑競技場に前途有望な若者たちが集められその多くが返らぬ人となりました。また、昭和三十九年に行われた東京五輪の聖火は、アメリカ合衆国の逆鱗に触れることを恐れる政府関係者の反対を押し切って、戦時中に日本が支配下とした東南アジア各国、激戦の舞台となった沖縄、原爆が投下された広島を経由し原爆が投下された数時間後に広島で生を受けた最終ランナー坂井義則選手によって競技場の聖火台に点灯され東京五輪は「平和の祭典」「日本の復興の象徴」として行われました。坂井選手も故人となり競技場も二〇二〇年のオリンピック開催にむけてリニューアルされています。近年懸念するのは、我が国を取り巻く現在の環境が戦前の状況に似てはいないかという事です。最近では若い世代に「かつてこの国に戦争があったことを語り継ぐ」のが責務ではないかと強く思っています。そして、東京で再び行われる予定のオリンピックが「平和の祭典」として行われる事を願っています。

最後に同窓会のますますのご発展と同窓会員諸氏のご活躍を祈念して筆をおきます。

【豊島小学校の登校風景】



登校風景は今も昔も変わりませんね

- ▷ 豊島昭和35年卒の水川泰男様からご提供いただきました。
- ▷ 懐かしい写真・思い出の写真をお寄せください。何か新たな発見があるかもしれません。

【豊島小学校の運動会(昭和31年)】



障害物競争でしょうか。とんがり帽子が長い!

なつかしの写真館

【今年のコレなんだ?】



今だ健在。私のことを覚えていますか?

【会報15号で紹介の謎の壁画】



小金井に新校舎が竣工後に当時、図工担当の伴先生と高浦先生がデザインされたものだそうです。総タイル貼、壁面全体を使用した、とても大胆なデザインですね。

「撫子の会」からのお知らせ

▽『ぶらり同窓会』開催

- ・日時 平成二十七年十月三十一日(土)
- ・懇親会 午後三時から
- ・場所 附属小金井小学校食堂一階
- ・会費 二十歳以上 二千円
二十歳未満 無料

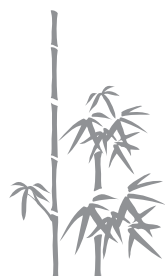
▽ホームページ担当からのお知らせ

- ・同窓会ホームページもリニューアル中です。
(<http://www.nadeshikonokai.jp>)

新たに、各期の同窓会情報、同窓生の現在などのほか、過去の学校生活にまつわる資料、情報、エピソードなどの他、会報で紹介しきれなかった記事や写真もフォローアップ予定です。

情報は、

nadeshiko@nadeshikonokai.jp まで。



▽会報への寄稿のお願い

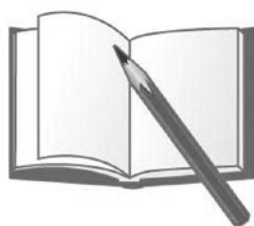
・皆さんと創る会報を目指しています。
クラス会・同窓の仲間の集い、母校の歴史ほか何でも。
先ずは先にお申し出ください。

川田 紀雄 電話 (042-324-9912)
野久尾 悟 電話 (03-3720-8023)
メールアドレス: nadeshikokaiho2013@gmail.com

●編集後記

LINEやフェイスブックの隆盛で、リアル同窓会は不要となるのか？ 時折、この話題でブレストになる。古き良きものを守ることではなく、絆とか、繋がりにしてもう一度考えてみたい。手触りや息づかいや匂い、そして音、そんな実感が蘇ってくるからこそその絆なのではないだろうか。「そうだ、同窓会に行ってみよう！」そう思いついたときに、いつでも扉を開いて待っていてくれる。そんな会になったらよいなと私は思う。

(野久尾 記)



「撫子の会」会報 第16号

発行 平成27(2015)年8月
編集 野久尾 悟
印刷 神林印刷(株)

〔投稿寄稿問合せ先〕

川田 紀雄 (電: 042-324-9912)
野久尾 悟 (電: 03-3720-8023)

〔同窓会事務局〕

東京学芸大学附属小金井小学校内
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
電話: 042-329-7823
ファクス: 042-329-7826
撫子の会郵便振替口座: 00100-8-709121
加入者名: 撫子の会